

# 本県の体格はガッシリ型である

## 調査の概要

この調査は、学校保健法により毎学年定期的に行われている健康診断(毎年4月～6月に実施)の結果に基づき、児童、生徒及び幼児の発育並びに健康状態を明らかにして、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的としています。

調査の対象は、調査実施校(文部大臣があらかじめ指定する学校)に在籍する満5歳から満17歳(昭和61年4月1日現在)までの児童、生徒及び幼児(以下「児童等」という)の一部です。

なお、「調査実施校」及び「調査対象者」を抽出するにあたっては、確率比例抽出法が用いられており、茨城県における調査対象者数は表-1のとおりです。

調査事項は、児童等の発育状態(身長、体重、胸囲及び座高)と健康状態(栄養状態、視力、聴力、歯、内科的疾患等の16項目についておこなわれます。

## 調査結果の概要

### 1. 発育状態

#### (1) 体格の県平均値と男女の差

昭和61年度の身長、体重、胸囲及び座高の平均値は、表-2のとおりである。

5歳から10歳頃までは、男子の数値が女子をわずかに上回る程度で推移しているが、10歳から13歳にかけては反対に女子の数値が男子を上回り、女子の成長がこの時期に著しいことがわかる。

さらに14歳から17歳にかけては、女子の数値が横ばい状態であるのに対し男子の成長は著しい。

#### (2) 本県と全国との体格差

県平均値と全国平均値を比較してみると、身長については、男で15歳まで、女で13歳までは、全国を上回る傾向を示し、特に男では、5歳～9歳、女では8歳～10歳にかけてが全国平均を大きく上

表-1 調査対象者数

区 分	学校総数 (A)	調 査 実 施 校 (B)	抽 出 率 (B/A) (×100)	児童・生徒・ 幼児(5歳児) の総数 (C)	発 育 状 態		健 康 状 態	
					調 査 対 象 者 (D)	抽 出 率 (D/C) (×100)	調 査 対 象 者 (E)	抽 出 率 (E/C) (×100)
	校	校	%	人	人	%	人	%
小 学 校	591	60	10.2	260,814	5,732	2.2	12,283	4.7
中 学 校	230	40	17.4	145,250	4,800	3.3	9,940	6.8
高 等 学 校	127	60	47.2	123,120	2,669	2.2	5,298	4.3
幼 稚 園 (5歳児)	447	35	7.8	50,636	1,259	2.5	1,557	3.1

(注) 1. 学校総数及び児童等の総数は、昭和61年5月1日現在のものである。  
2. 幼稚園の調査対象者は、5歳児のみである。

昭和61年度学校保健統計調査結果から

表一 年齢別身長・体重・胸囲・座高の平均値と男女差

区 分	身 長 (cm)			体 重 (kg)			胸 囲 (cm)			座 高 (cm)			
	男	女	差	男	女	差	男	女	差	男	女	差	
幼稚園	5歳	110.8	109.9	0.9	19.2	18.8	0.4	56.4	55.1	1.3	62.7	62.2	0.5
	6歳	116.5	115.8	0.7	21.2	20.8	0.4	57.8	56.4	1.4	65.3	64.8	0.5
	7歳	122.2	121.5	0.7	23.8	23.3	0.5	59.9	58.5	1.4	67.8	67.4	0.4
小学校	8歳	127.7	127.1	0.6	26.7	26.2	0.5	62.3	60.9	1.4	70.2	69.9	0.3
	9歳	132.9	132.8	0.1	29.7	29.4	0.3	64.7	63.6	1.1	72.4	72.4	—
	10歳	137.9	138.9	△1.0	33.1	33.3	△0.2	67.2	66.7	0.5	74.6	75.2	△0.6
	11歳	143.6	145.6	△2.0	37.0	38.2	△1.2	69.9	70.7	△0.8	77.0	78.6	△1.6
	12歳	150.2	151.0	△0.8	42.2	43.4	△1.2	73.0	75.0	2.0	80.1	81.7	△1.6
中学校	13歳	157.7	154.4	3.3	47.7	47.1	0.6	76.4	77.7	△1.3	83.7	83.5	0.2
	14歳	163.9	156.3	7.6	53.3	50.0	3.3	80.1	79.8	0.3	87.1	84.5	2.6
高等学校	15歳	167.6	157.1	10.5	58.3	52.1	6.2	83.1	81.4	1.7	89.5	85.1	4.4
	16歳	169.4	157.5	11.9	60.4	52.8	7.6	84.8	82.1	2.7	90.4	85.1	5.3
	17歳	170.3	157.7	12.6	61.8	52.8	9.0	86.2	82.2	4.0	90.9	85.1	5.8

(注) 「差」は男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

回り、逆に男で16歳～17歳、女で14歳～17歳が全国平均を下回っており成長が早い割にはいまひとつ伸びきらないといった傾向が見られる。

体重及び胸囲については、いずれの年齢でも男女とも全国平均を大きく上回っており、本県の体型は「ガッシリ型」といえるだろう。

座高については、11歳を境に、5歳～10歳までは全国平均をやや上回る傾向であるが、12歳～17歳にかけては、男女共全国平均より大きく下回っており足長の傾向にある。(図一)

(3) 年間発育量の推移

図一は「昭和43年生まれの者」(昭和49年度調査

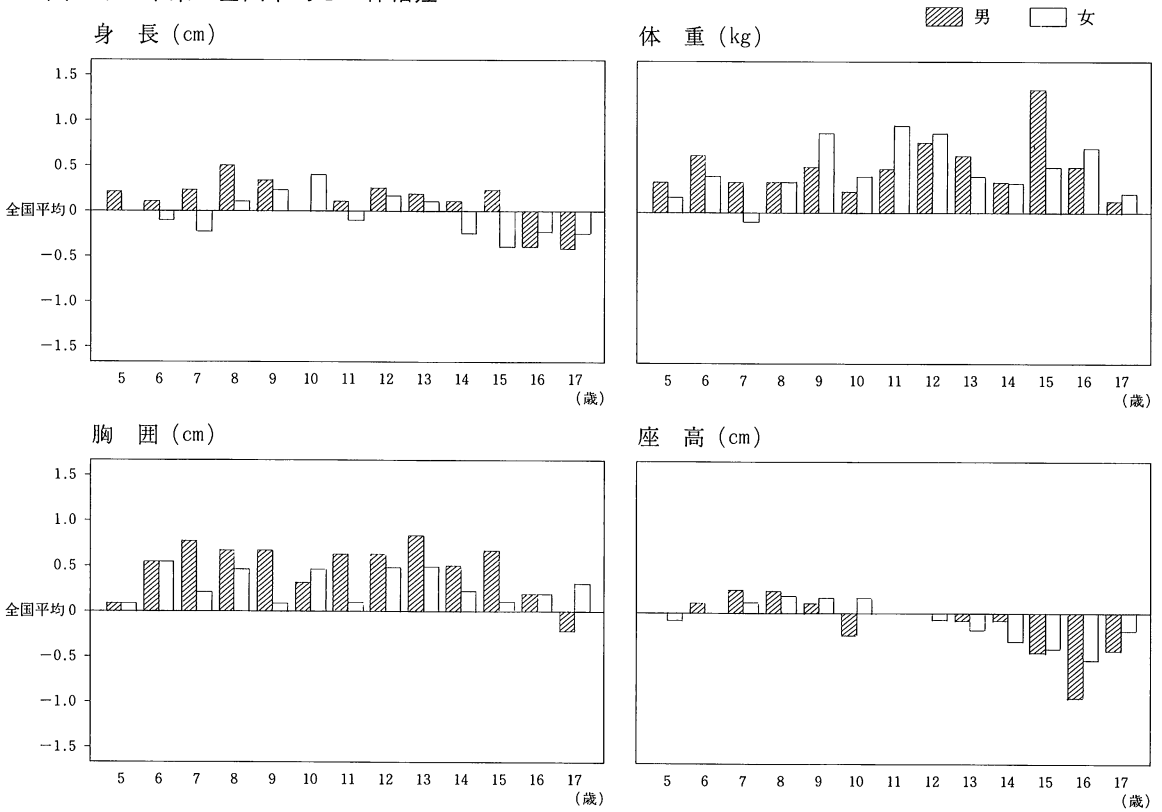
の6歳児は昭和61年度調査では17歳となる)と「昭和33年生まれの者」(昭和39年度調査の6歳児は昭和51年度調査では17歳となる)の年間発育量について比較したものである。

身長についてみると、男子では6歳～10歳までは、43年生まれが33年生まれを上回る発育量で推移し、最もピークに達するのが、33年生まれでは12～13歳であるのに対し、43年生まれでは11歳～12歳と早くなっている。

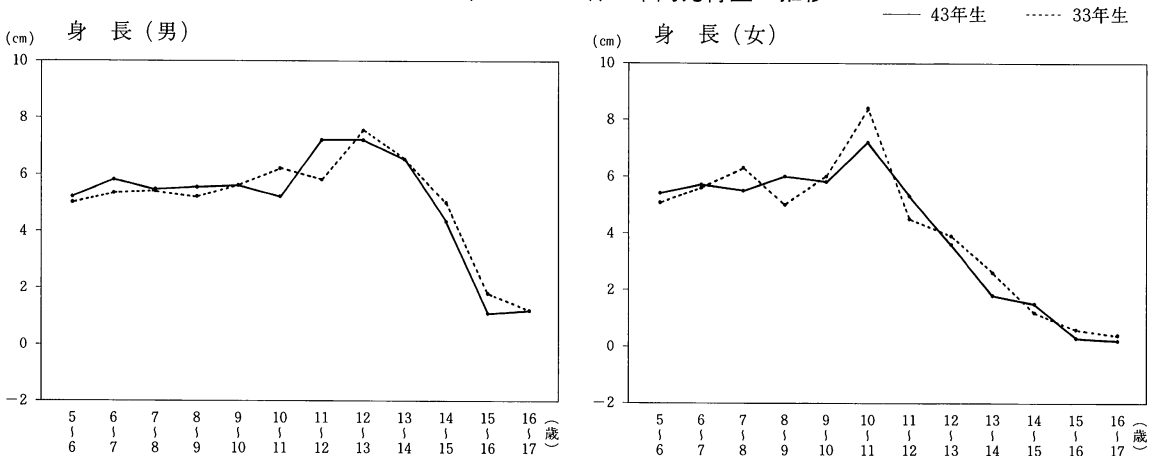
女子の場合、33年生まれでは10歳～11歳にかけての発育量が著しいのに比べ、43年生まれは同じく10歳～11歳にかけてが著しいが、6歳～10歳までの発育量は平均的な動きを示している。

# ■ 調査から

図一 1 本県と全国平均との体格差



図一 2 昭和43年生まれのと昭和33年生まれの者の年間発育量の推移



(注) 年間発育量とは、たとえば、昭和43年生まれのもの「6歳～7歳」の年間発育量は昭和51年度調査7歳の者の体位から昭和50年調査の6歳者の体位を引いたものとなる。

つぎに体重についてみると、男子の場合33年生  
 生まれの発育量が最もピークに達するのが13歳~14  
 歳であるのに対し、43年生まれの場合はそれより  
 早くなって9歳~11歳にかけてが最も著しい増加  
 を示している。さらにその後も発育量は伸び続け  
 14歳~15歳にかけてピークに達する。女子の場合  
 も男子と同じような傾向がみられ、最もピークに

達するのが、33年生まれが10歳~11歳であるのに  
 対し、43年生まれでは11歳~12歳となっている。

(4) 体格の変化

発育状態が最もピークに達すると見られる17歳  
 の体格について46年度を基準にみたものが図-3  
 である。

図-3 昭和51年度から昭和61年度にかけての増加率(17歳)

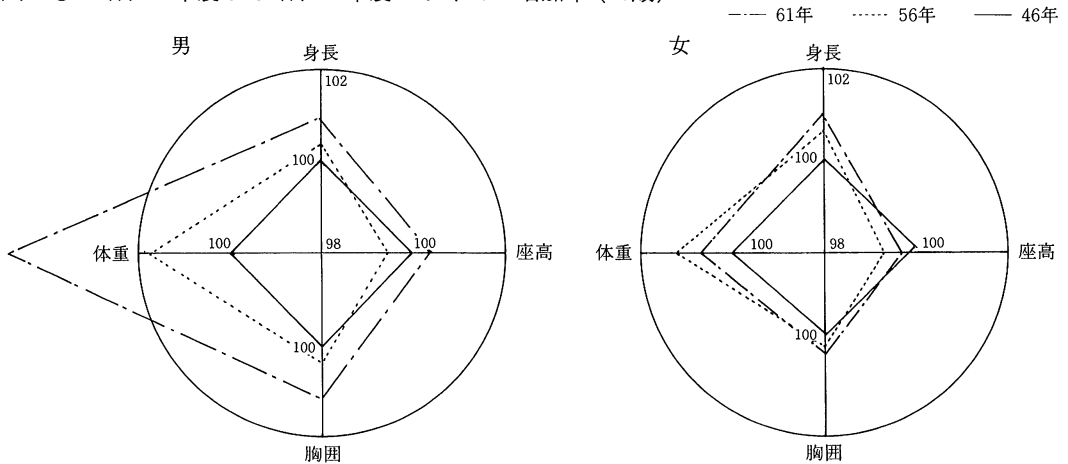
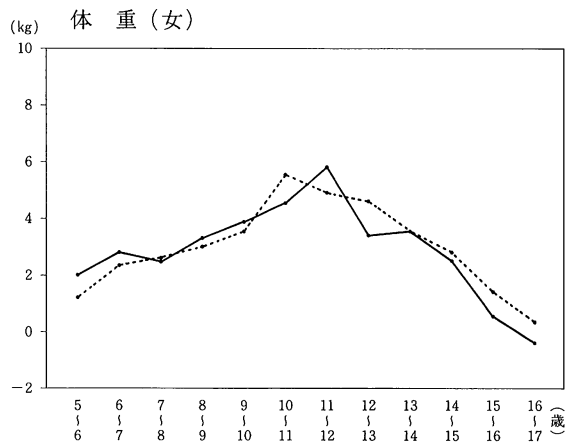
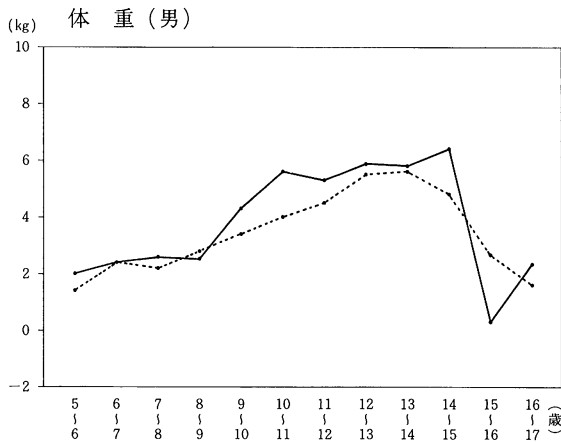


図-2 つづき



## 調査から

これによると、男子の場合、身長、胸囲が同じような増加を示しているのに対し、座高はやや減少から微増であり、体重については大幅な増加を示している。女子については、身長、体重が若干増加しているのに対し、胸囲は微増、座高は減少している。

## 2. 健康状態

### (1) 主な疾病・異状の推移

学校種別の過去5年間における主な疾病・異状の被患率は表-3のとおりである。

そのうち「う歯」(むし歯)についてみると、学年が進むにつれてその割合が高くなっている。その推移を見ると、57年から60年にかけては、いずれも横ばいから減少傾向にあったのに対し61年では中学校を除き、増加を示した。

裸眼視力1.0未満の者については、いずれも横

ばいであり、学年が高くなるほど被患率は高くなっている。肥満傾向については、小学校、高等学校で増加の傾向が見られる。

### (2) 本県と全国平均の疾病率の比較

学校種別ごとの「う歯」及び「裸眼視力1.0未満の者等」について本県と全国を比較したものが、図-4である。

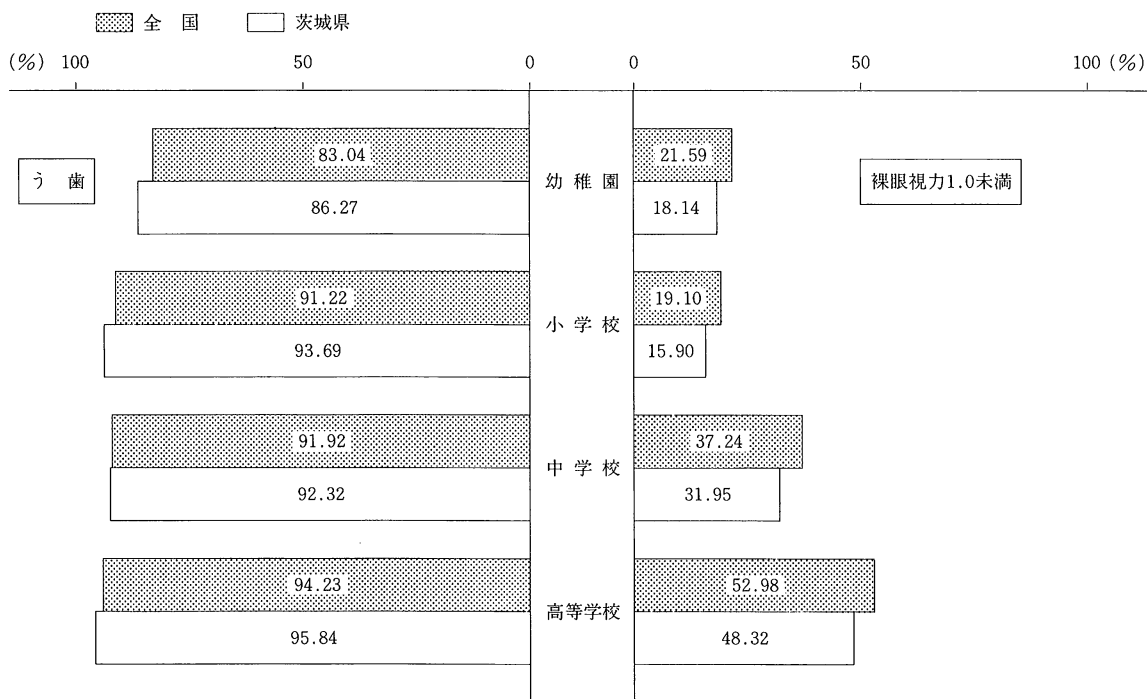
これによると、「う歯」についてはいずれも全国を上回っているが、「裸眼視力1.0未満の者等」については反対にいずれも全国を下回るといった結果になっている。

(統計課・人口労働グループ)

表-3 主な疾病・異状の被患率の推移

区 分	幼 稚 園 (5歳)					小 学 校				
	昭和 57年度	58	59	60	61	57	58	59	60	61
う 歯	92.0	88.1	86.4	78.0	86.3	94.0	93.5	94.7	92.6	93.7
裸 眼 視 力 1.0 未 満 の 者	14.0	19.7	41.9	22.7	18.1	14.3	14.5	15.7	17.5	15.9
鼻・いん頭炎	—	—	0.2	0.7	0.3	1.8	2.2	1.7	1.3	2.3
へんとう肥大	7.5	10.0	10.1	7.2	6.3	7.8	6.3	5.5	6.5	5.5
寄生虫卵保有者	4.4	2.9	2.9	3.2	1.7	2.8	3.3	3.2	2.7	3.0
結 膜 炎	0.2	—	0.1	—	0.2	0.7	0.9	0.4	0.4	0.7
肥 満 傾 向	0.5	0.7	0.2	1.1	0.4	1.6	1.5	1.0	1.5	2.0
蛋白検出の者	0.4	—	1.0	0.1	—	0.4	0.3	0.9	0.4	0.7

図一四 「う歯」及び「裸眼視力1.0未満の者等」の全国との比較



表一三 つづき

(単位：%)

中 学 校					高 等 学 校				
57	58	59	60	61	57	58	59	60	61
95.8	94.2	93.0	93.8	92.3	96.4	96.1	96.2	92.5	95.8
31.0	28.5	33.0	30.7	32.0	48.1	47.0	45.2	51.6	48.3
0.4	0.5	1.0	1.1	1.0	1.5	0.1	0.5	0.8	0.7
3.0	3.1	3.8	2.7	3.7	1.4	1.5	1.9	1.9	1.3
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
0.6	1.0	0.3	0.3	0.3	0.5	0.5	0.6	0.4	0.4
1.4	1.7	0.7	1.4	1.3	0.5	0.4	0.1	0.8	1.0
1.5	1.3	0.9	1.0	0.9	1.0	0.9	1.1	0.3	0.6